

# 蛸名 晶子（えびな・あきこ）

## 1、プロフィール

俳人「すすき野」「北鈴」「薫風」同人として、八戸の戦後俳壇とともに歩む。「薫風」編集長兼副主宰を務めた。「萬緑」同人。

<生没>

1922(大正 11)年8月8日～2012(平成 24)年 10 月 29 日

<代表作>

句集『かく生きて』

<青森との関わり>

東京生まれ。昭和 16 年母の故郷八戸に移り住み、俳句の道ひとすじに、八戸の俳句文化振興に尽力。

## 2、作家解説

「暁光や黙解くごとく牡丹咲く」60 年間育ててきた種が 85 才にして処女句集『かく生きて』に結実する。日々の暮らしに根ざした情感あふれる俳句がここに開花した。

大正 11 年東京下谷に生まれ、私立文化女学校卒業後母の故郷八戸に移り住み、家業に従事しながら4児を育てる。八戸市女性クリーニング師第一号でもあった。

昭和 24 年「すすき野」に入会し、加藤憲曠に師事する。第1回すすき野賞を受賞。

八戸俳壇一本化の流れの中、29 年に八戸女性句会を富岡紅女らと結成、37 年に機関誌「群咲」を発行する。昭和 33 年「すすき野」「青年俳句」「北地」の三誌が発展的に解消、八戸俳句会が発足、同人となる。翌年「北鈴」創刊。畏敬する中村草田男主宰の「萬緑」に入会し、詩としての俳句を求め続けていく。

49年、評論「千代尼考」により北鈴賞を受賞。「八戸俳壇を築いた人々」に阿部思水・伊藤麦子ら身近にいた俳人に関する優れた評論を記し、八戸の戦後俳句史を語る。

53年群咲句会を発足、主宰となる。またこの年より、村上しゅらとデーリー東北俳句教室を開講する。藤蔭句会や五月会を指導、青森県女性俳句会を発足するなど、精力的に活動する。58年八戸俳句会解散により「北鈴」が終刊、翌年加藤憲曠主宰の「薫風」が発足。以来「薫風」を支え、編集長兼副主宰を務めた。また学生俳句大会、公民館、学校などさまざまな場における指導を重ね、俳句の普及に努めた。

60年に八戸文化協会芸術文化褒章、平成7年青森県芸術文化振興功労賞・八戸市文化賞、11年八戸市文化功労賞受賞。俳人協会会員青森県支部幹事、青森県俳句懇話会理事。朝日新聞社刊『俳枕』淋代・奥入瀬・十和田湖の項を執筆。

人を愛しひきつけるやさしさをたたえた晶子の句は、みずみずしく輝きを放ち続けている。「蜜柑食べ光の粒を吸うており」

### 3、資料紹介

○『かく生きて』

図書

2007(平成19)年2月15日

195mm×135mm

著者85歳の第一句集。昭和23年から平成15年まで「すすき野」「北鈴」「薫風」に発表した414句を収録。「すすき野・草の花・鷺草・香紫羅欄花・車前草・秋薔薇・沙羅の花」の7章。序文加藤憲曠、跋文米田省三。「車前草かく生きて日の当たりけり」